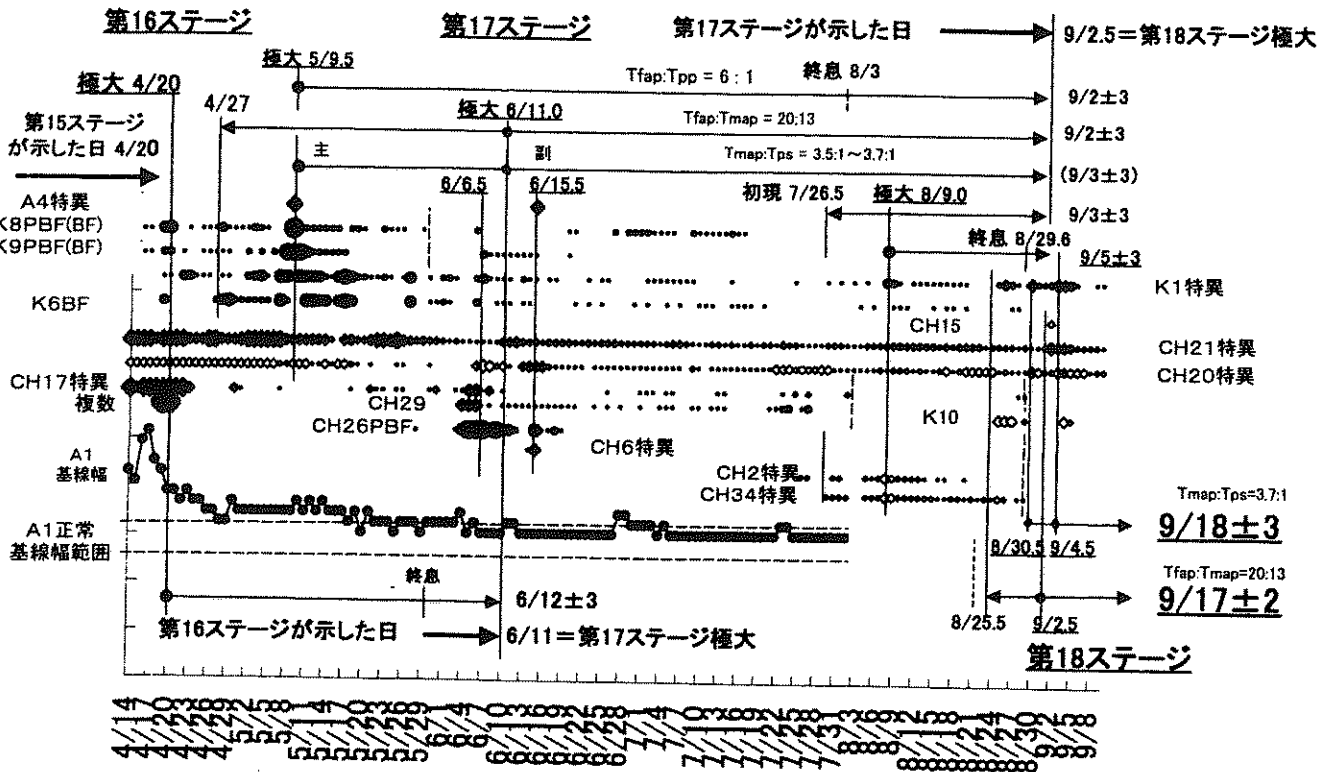


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 現況報告 8/30・9/4 極大がツインピークスで9/2中心極大の可能性で再検討



No.1778長期継続前兆は最終段階である可能性が高い見解です。08月30日と09月04日にピーク認識ができ、前報告では、各々が極大の場合を考えました。しかし、両極大共に高知観測点のK1観測装置とハヶ岳南麓のCH20がピークを形成しています。高知観測点のK10は両極大の前後に特異状態が出現しています。またハヶ岳のCH21は9/2から特異状態が大きくなりましたが、9/2 昼に完全系状態を記録致しました。これらを鑑みるに、前兆期間が長い地震前兆に時折認められるツインピークス極大の可能性も考えられます。ツインピークスの場合は両極大の中心が極大となり、各時間変化経験則に調和します。今回の場合は、中心は09月02日の昼、つまり9/2.5が極大の可能性となります。高知観測点K1・K10の特異初現=8/25昼を初現とし、9/2.5極大として、 $T_{fap}:T_{map}=20:13$ 経験則を適用させますと09月17.4日が発生日と計算できます。また一方で、8/30.5と9/4.5のピークを地殻地震前兆で良く出現する主副極大の可能性と考えた場合は、8/30.5主極大 9/4.5副極大主~副極大間 $T_{ps}=05$ 日。主・副極大はほぼ同等であることから、平均比 $T_{map}:T_{ps}=3.7:1$ 経験則を使用して計算しますと、09月18日が計算できます。前報告でも記しましたとおり、高知観測点の観測装置故障で8/22~8/24までの期間、データが無く、8/25.5初現が正しいか否か、それ以前に初現があった可能性も否定はできませんが、前述のふたつの関係から求められる

時期は一致しておりますので、偶然かもしれませんが、観測再開後の8/25.5に前兆初現が観測された可能性はあります。(第17ステージの06月極大もツインピークスとなっております) 今回の認識が仮に正しい場合は左下記の時期に前兆終息が観測される可能性有。CH20も下の通り静穏基線が多 9/08=14時間静穏<観測されて 9/09=5時間静穏あり、CH20も 9/10=4時間静穏大きな変動少なくなっており、前兆は極めて減衰傾向状態です。9/16段階で前兆継続の場合は、前回報告内容を参考に再考予定。

【9/2.5 極大認識の場合】
下終息の場合⇨推定発生
9月12日夜 ⇨ 9月16日
9月13日午後⇨ 9月17日
9月14日朝 ⇨ 9月18日
9月15日未明⇨ 9月19日
9月15日夜 ⇨ 9月20日

- ◆推定領域：右図太線領域内付近 (やや火山帯に近い領域の可能性有)
- ◆推定規模：M7.8 ± 0.5
※群発的地震活動の可能性も有
- ◆推定時期：前兆終息を確認して推定 現状認識での可能性=9/17±2 (現状認識では9/17or9/18の可能性大) ※9/16迄に前兆終息しない場合は再考
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻
- ◇推定発生時刻：AM9:00 ± 1 (or PM6:00 ± 3)

